

マジカル ニュース 探り隊

トンボ



シオカラトンボのオス。よく見かけるトンボの代表格だ

童謡にも歌われるトンボをなつかしむ人は多い。そろそろ羽化の季節。夏空を飛ぶ姿が今から待ち遠しい。

むかしから愛されてきたトンボだが、実は生態にナメが少なくない。自然が残る東京・八王子で大学生が調査したところ、意外なことがわかった。

キーワード トンボ

細長い体と長い羽、大きな複眼を持つ昆虫。国内には約200種類がすむ。幼虫はヤゴと呼ばれ、水中でミジンコや小さな虫を食べる。成長すると木の枝や草に上り、羽化して成虫となる。古来、日本人は体色の美しいトンボに愛され、飛ぶ姿に夏や秋の風情を感じてきた。



のふし

もっと知りたい



羽に印をつけたナツアカネ☆



ナツアカネが急に増えた



赤トンボともいわれるアキアカネ☆

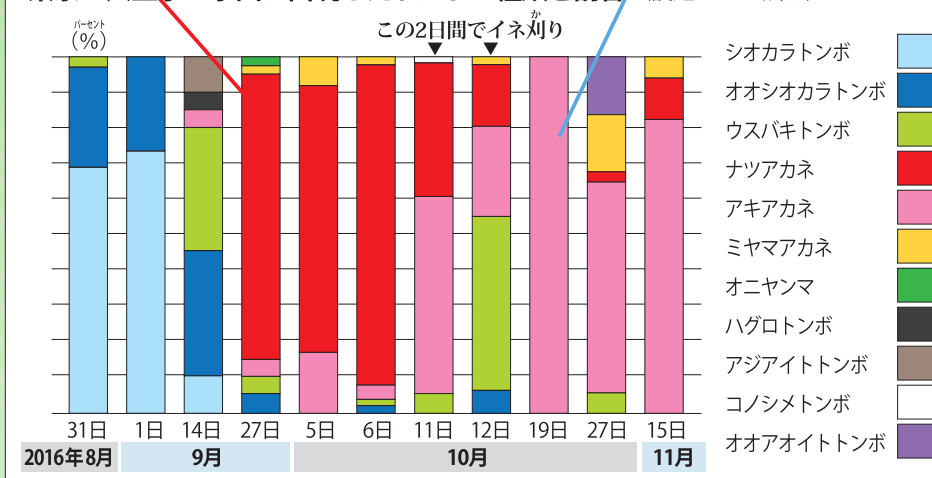


イネ刈り後はアキアカネばかり

アキアカネ(青い丸の中)は水たまりに産卵する☆

所有者の許可をもらって水田のあぜ道からトンボを採集する渡辺陽香さん☆

東京・八王子の水田に出現したトンボの種類と割合 (渡辺さんら調査)



水田に計11種類いた

上のグラフを見てほしい。この調査で明らかになったのは、夏の終わりに秋にかけて「シオカラトンボ→ナツアカネ→アキアカネ」の順で多数派が移り変わることだった。また、9月27日のように多数派の種類が入れ替わる時に多様なトンボが姿を現した。この水田では計11種類のトンボが見られた。

えっ!? 1週間でアキアカネ一色に



調査した水田では10月11~12日、イネ刈りがあった。1週間後の19日に調査したら、かつて多かったナツアカネなどが見られず、アキアカネばかりになっていた。なぜだろう?

理由は、ナツアカネとアキアカネの産卵方法のちがいにあったと考えられる。ナツアカネはイネの穂の上から卵をばらまくが、アキアカネは水たまりに産みつける=上の写真。

人が入ってイネを刈り取った田んぼには程よくぼみができ、アキアカネが産卵しやすい場所になっていた。

ひとこと

ありふれた人間のいとなみがトンボに多大な影響を与えていたことにびっくり。わたしたちは自然に対してもっと責任を持たなければならない。(浜)

☆印の写真は明星大学理工学部 岩見徳雄研究室提供

都会のトンボを大学生が調査した



調査のため、後ろ羽の裏にフェルトペ
ンで印をつけたシオカラトンボ☆

2016年8月末~11月中旬、明星大学理工学部4年(当時)の渡辺陽香さんを中心に、東京都八王子市の水田で13回にわたるトンボ調査が行われた。岩見徳雄准教授らの指導の下、渡辺さんは12月の第53回日本昆虫学会関東支部大会で成果を発表した。

調査はあみで捕らえたトンボの羽にフェルトペンで印をつけて放すことから始まった。後日ふたたび採集し、捕らえたトンボの中に印をつけたものがどれくらいいるかカウント。その割合から水田全体のトンボの数を推定した。

全体の数は減っていないが……

研究を指導した田口正男
明星大学非常勤講師の話

「いちがいにトンボの数が減っているわけではありませんが、内容は変わってきています。もともと入れ替わりが起こりやすく、京浜臨海部(東京湾沿いの工業地帯)に限ってもこの10年でシオカラトンボが多い時とそうでない時がありました。最近では関東地方を除いて、アキアカネが非常に少なくなっているようです。このようなことへの都市化や地球温暖化、農業の使用などのかかわりを知ることは、生物多様性にとって大切なことです。そのため、こういう記録をたくさん残す必要があります。」